◉古文書學概論

勝峯　月溪著

近來國史學の發達普及著しく、從つて古文書の利用は益々多からんとしてゐるが、古文書學に關する著書は古く久米博士の古文書學講義がある位のもので、それとて今日容易に手に入れ難く、久しく此種の著書が世に出でなかつた。然るに此度勝峯文學士によつて本書が編著されるに至つたことは學界のため喜ぶべき事と云はねばならぬ。著者は年來京都大谷大學に於て古文書學を講じ斯學に關し研鑽を積まれつゝあつたが、其間之に關する著書を編成せんとし、京都帝國大學古文書室及び大谷大學圖書館に於て更に博く資料を蒐集調査すること約二ヶ年殆んど全力を之に傾倒されて居つたが、其の原稿が將に完結に近づかんとして居つた時に圖らずも急逝されたのは實に惜みても餘りあることであつた。著者の同窓德重淺吉學士は友愛の情極めて深く、如何にもして故人の素意を達せしめんとし、多忙なる學事の餘暇、或は原稿を補訂し或は圖版を選定して文字に一々訓點を施す等、並々ならぬ助力を加へられて茲に漸く刊行が成つたのである。全編は序論第一章古文書學の概念、第二章古文書學の發達、第三章古文書學研究上の諸注意、本論前篇外的研究、第一章古文書の材料及び製作の器具、第二章古文書の形狀、第三章書體、第四章書風、第五章花押、第六章印章、後篇內的研究、第一章言語及び文體、第二章樣式總說、第三章樣式各說、第四章眞僞批判、第五章解釋及び效力の考究、とし終りに索引を附してある。古文書學に關するあらゆる資料の集成に努め、殊に各種の古文書を一の體系の下に分類配列を試みたことは著者の最も苦心の存する所であつたと思はれる。斯學の研究をなさんとする人々には恰好の書物である。（菊判七八七頁、東京目黑書店發行、價拾貳圓）〔松野〕

◉日本巫女史

中山　太郎著

日本に於ける巫女の發達を記述せるものとして空前の大著である。總論に於て巫女史の本質と學問上の位置を論じ、第一篇を固有咒法時代として應神天皇以前を取扱

ひ、第二篇を習合呪法時代として天正時代迄を含め以下を第三篇退化呪法時代に於て述べて居る。誠に勞作と稱すべく種々の興味ある考證と說話とをその中に含んで居るが大體をいへば從來の研究を集成せるものもしくは廣く材料を集めこれに一の組織を與へたものといひ得るであらう。その考察に於てはなほ十分ならざるものがあるように思はれる。著者のいふ如くこの問題はその關するところ甚だ廣きものがある。本書の出版によつてその研究に對する興味の普遍化するを祈ると共に著者が益これに精進してその大成に至るべきを願ふ次第である。(菊判七四三頁、價七、五〇圓、東京大岡山書店發行)〔肥後〕

◉都市研究 平安京變遷史 附古地圖集

藤田　元春著

近代經濟生活の發展に伴うて急速に膨脹する郊外地域の亂雜と無秩序とを慨するものは必ずや千年の昔荒漠たる原野を拓いて條坊の方格を定め、規矩整然たる大都市計畫を實現した平安朝の政治家を想ひみるであらう。當時の面影を傳へるものは舊京都の街衢である。然もその舊京都の市街は決して簡單に想像せられるが如く單一なるものではなくして、その中に自ら三種の異れる地割を有し、それはまたそれ〴〵に異れる時代を反映する、換言すればそれら三種の地割はいはゞ層位的に平安京地域變遷の跡を物語るものなのである。この事實を古地圖の示すところに基いて考證論斷しようとしたのが本書前半の要旨である。著者はそれによつて前著「尺度綜考」に於いて得たところの、「古い地割は永續する」といふ命題に更に有力なる證左を與へた。併しながら本書はもとより、この一般公式の例題的適用ではなくして、それに加へられた種々なる歷史的因素に就いても十分なる考察をなしてゐる。例へば、中世下京の發展に祇園の神人座商の勢力の與つて力多きを說けるが如きであり、著者は更に進んで祇園會の有する經濟的意味にまでも言及する。叙述もとより簡略ではあるが示唆する所が多い。而してそれらの叙述を通じて見られる所のものは著者の趣味であり人柄である。蓋し、古地圖そのものは無言である、その